第4巻



軍師 黒田官兵衛伝

【くろだかんべえ】

Gunshi
Kuroda Kanbee-den

重野なおき

Shigeno Naoki

YOUNG ANIMAL COMICS



重野なおき
Shigeno Naoki

人生で目薬を使った事が無い。

Cover Design:Kohei Nawata Design Office

YA COMICS

軍師 黒田官兵衛【くろだかんべえ】伝

4

重野なおき

C O N T E N T S


58 決戦までもうすぐ
備後国鞆——
確かに織田信長は明智光秀に討たれたもようです!!
将軍!!
ま まことかなのだー!!
信長に京を追い出された足利義昭
やってくれたな光秀…心の部下よ!!
ワシの室町幕府を復活させるために信長を討ったのだなー?
正直それは無いような…
何も言わんとこ
んじゃまたイチから作れって事か!!『義昭幕府』にしちゃおっかなー
ひゅー!! カッコイイー!!

大自然最高


信長が死んだっ♬
信長が死んだっ♬
あの信長が…
………
本当に…
死んだのか…
なぜだろうな…
心にぽっかり
穴が開いた
気分なのだ…
あ
キレイな虹
さっそく
埋まったのだー♬
そんなんで?
穴 小さっ!!

心より実益


よーし光秀に
使者を出すのだ!!
「一日も早く余を
京に迎え入れてくれ」
となー!!
あ その事ですが…
まだ光秀殿が
天下を取ったとは
言えません
羽柴秀吉軍が
大返しして光秀殿と
雌雄を決するとの
情報も…
え…?
えーと…
勝てば
官軍!!
天下人
負ければ
ただの
謀反人…
秀吉にも
「頑張れ 将軍が
ついてるぞー」って
使者を出すのだー
さっき
「光秀は心の部下」
とか言ってたのに…

天下へ自慢


播磨国国府山城
そろそろ明智軍と決戦する頃でしょうか…
ああ それに勝てば
昔は夢物語だった「日本一の軍師」が一気に近付く事になるな…
あの人が… 日本一の軍師…
ははーっ
天下の大名諸君!!
これが妻・光だ!! かわいいだろー?
やりそうで恐い…

軍師の妻


勝ち負けはどうでもいいのです
あの人が生きて帰ってくれさえすれば…
などとは言いません
味方の損害をできるだけ少なく
迅速に
そして秀吉様の今後の事まで考えて…
勝って帰って来る!!
それが軍師・黒田官兵衛です!!

一瞬びびった



全権ゲット



方法はある


状況と作戦をご説明します
京
勝龍寺城
山崎
我らは京の入り口勝龍寺城を落とさねばなりませんが…
我らが進む「山崎」の地は天王山と淀川に挟まれてます
明智軍はこう街道出口で待ち構える事でしょう
こちらの陣形は縦長にならざるをえないな…
いくら大軍でも先頭しか戦えぬ!!
ご安心を
それでもこの戦も我が掌の上です!!

弱点発覚


——作戦は以上です
では出陣しましょう山崎へ!!
この一大決戦の前なのにあの落ち着きよう…
本当に頼もしいヤツだぜ…
善助 決戦前だ 玲珠膏を塗る
あ もう きれました
あばばばば
そんな事で動揺すんなー
あげたり使いまくるからでしょー!!

勝手になれ



空間を越えて




勝龍寺城
光秀軍一万
秀吉軍二万
山崎の地に布陣!!
天王山
59 ライバルついに激突
明智軍にいまだ動き無し!!
「腹が減っては戦はできぬ」と言う
誰かー飯を!!
ちょうど近江のねね様から握り飯が届きました!!
「勝って」と伝言付き
お…おう
それ食べた方が戦できなくなる確率が七割です
そうか…

なんで時間差


バリ
ガリ
ゴクッ。。。
ふふ…相変わらず
奇抜な味でござる…
だが
拙者はもっと
ねねの料理を
食べたい
そのためにも
生きて帰らねば
ならんのでござる!!
続いて届きました!!
食後の手作りまんじゅう!!
今日はいい!!
さすがにいい!!

バレた


秀吉は
言っていた…
「万民が笑って暮らせる
世の中」が夢だと…
ならば私は
「秩序のある世の中」を
第一に目指す!!
皆が規律を守り
不正無く勤労勤勉に
励む世の中を…
今「つまんなそー」って
思わなかった?
思ってません
思ってません!!

互いの作戦


敵に天王山を抑えられたのは痛手だったが…
天王山を取り戻せば一気に敵を包囲できる!!
勝てる!!
天王山
明智軍は必ずこの天王山を攻めてくる…
ここを防ぎ明智軍が山側に集まった所を川側から別働隊が包囲する!!
それで勝ちだ!!

先陣動く


天正十年六月十三日
午後四時
ドクン
ドクン
ドクン
ドクン
雨も上がったな…
参るぞ!!
天下分け目の合戦開始だ!!
明智家武将
斎藤利三

これが自慢



当たったのに



残りの一厘 何？


ここまできたら
運を天に
任せるのみ…
ご心配なく
パチパチパチ
兵数の差 地の利
将の能力を算術に
当てはめると…
三成!!
九割九分九厘
我が軍の勝ちです!!
チーン
それ逆に
負け展開みたい
なんだけど…

誤算


ワァァァァ
ダーン
ダダーン
やはり天王山側から
攻めてきたな…
予想通りだ
あとは麓の
高山・中川・堀隊が
これを防いで…
?
高山隊が…
中川・堀隊も…
押されている？

馬鹿はおまえだ



逆襲の光秀




戦闘開始から
およそ一時間
優勢は――
明智光秀軍
60 信長の教え
敵は怯んだぞ!!
押せ――!!
おおおお
いずれその名は
天下に鳴り響くだろう!!
数々の物語に
頼もしい男だ
斎藤利三…
しかし鳴り響いたのは
娘の福(後の春日局)の
ほうだった(この時 四歳)
そうなの?
誇らしいけどな!!

投げ出したい



ぶっちゃけた



今後も必須



うおおおお
ぐさ
どす
馬鹿な…算術ではこちらの勝利は間違いないのに…
パチパチパチ
算盤は捨てよ三成
戦場ではそんな物──
ヒュウウウ
危なかった流れ矢が!!
役に立ったー!!

まだ早いし



何の問題も無い!!
官兵衛の作戦は最善でござる!!
あとは…信じるでござる各将の力を
うおおお
ダーンダダーン
官兵衛様から伝言!!
「すぴばせん拙者は軍師失格です」と!!
想定外の事態に弱いな!!

欲を知る大将



やったんだ



勢い余りまくり



喜び無し



継ぐ者


お主も拙者同様
信長様の戦を見続けて来たではないか…
「敵より多く兵を集めよ」
「外交で盟友を増やせ」
「神速をもって地の利を押さえよ」
鉄砲だって野戦においては長篠の戦いのように柵や土塁を利用して初めて活きるもの…
なのにこの戦
お主から信長様の匂いが何ひとつ感じられない…

継げない者


光秀様!! もはや大勢は決しました!!
勝龍寺城までお退きを!!
やりたくてもできなかったのか?
もう自分は信長様を越えたと思ったのか?
それとも
信長様の幻影を振り払うあまりに
今まで共に過ごした日々まで消し去ってしまったのか…?
明智軍は退却を開始する


61 敗北の理由
うわあああああ
明智軍が・・・
他の隊に遅れをとるな!!
行け――――!!
形から入る隊
総崩れだー!!
明智軍が落とした鉄砲ひろえー!!
これさえあればオレ達にもあの射撃が!!
敵を追えー!!

そしてまた増える



人の心ある？



泣きっ面に土



城兵 気が立ってた



しかも褒められたやつ



心を治して



十日にしたい


負けたな…
少し調子に乗ってはすぐに叩き落とされる…
実に私らしいな
後世の人々は「光秀の三日天下」と馬鹿にするのだろうな…
殿…
そんな事ありません殿!!
正確には十一日です!!「十一日天下」!!
うん うん
語呂悪いし中途半端…
それも私らしいな…

本当の敵


織田家の重臣たちは…
結局 誰も私に味方しなかった…
信長様が生きている可能性を捨てきれず…
いや 死を確信してなおも敵方となる事を思い留まらせた
それほどまでに織田信長の存在は恐ろしく…そして偉大だった
私は秀吉にではない
信長様に負けたのだ

自分への疑念



落ち武者狩り



62 私は僧になりたい



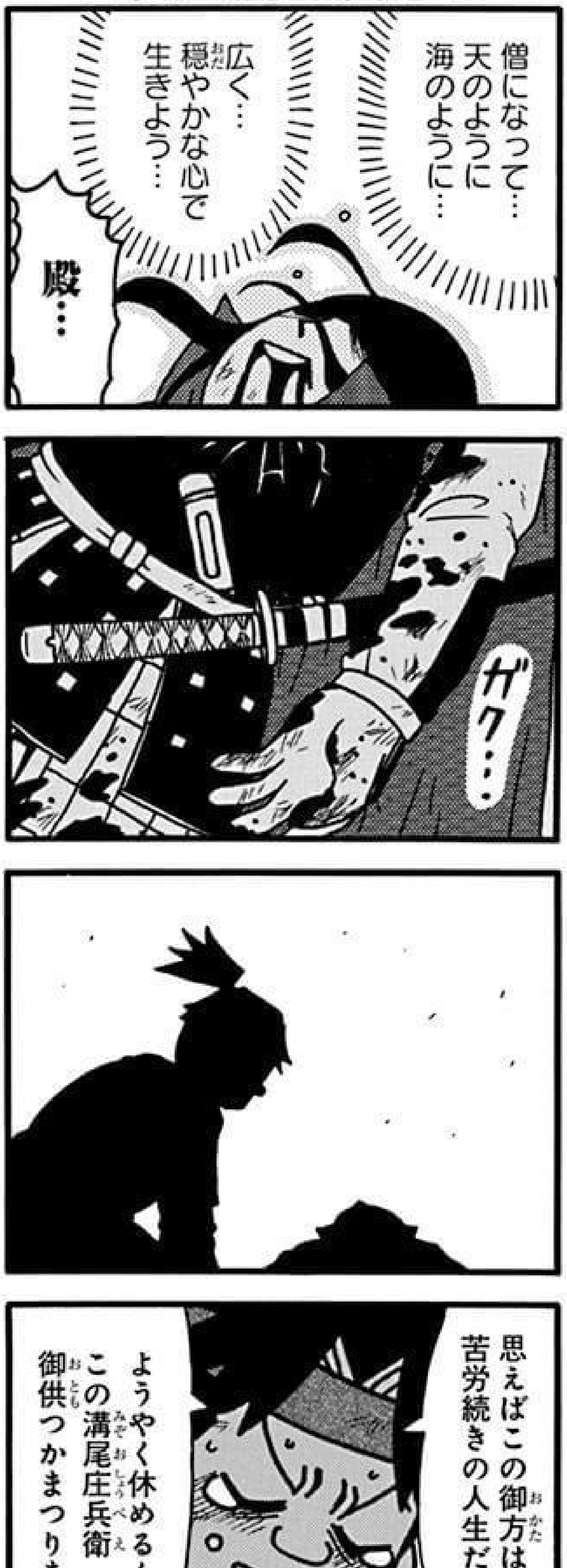
最期まで不運



せめて剃って



七転八倒の終わり



あの世で泣いてそう



拷問道具


ザッ・・・
さて…もう明智光秀はこの世にいないでござるぞ
斎藤利三
頑なに口を閉ざしたままです…
唯一口を開くのがねね様の料理を近付けた時のみで
あうあわ
やめろおおおお

光秀を知る者


本能寺の変の理由を聞きたかったのですが…
スッ
それはもういいでござる
斎藤殿…
かつて光秀の仲間だった者としてひとつだけ知りたい事がある
光秀は
昔から・・・ずっと・・・天下取りの野望を持っていたのでござるか？

信じたい


ピク・・・
拙者と光秀は信長様を天下人とするため粉骨砕身働いていた…
宴会の時 共に肩を組み織田家の明日を語り合ったりもした…
あの日々は!!
苦しくも楽しかったあの何物にも替えがたい日々は!!
すべて偽りだったのでござるか?
答えてくだされ斎藤殿!!

判明


ワシは…
昔ながらの明智家臣ではない
だが・・・それはわかる・・・
光秀様が謀反を決意したのはごくごく最近の事だ
それまでは信長を心の底から慕い尊敬していた…それは確かだ
だからお主の語る「あの日々」は
決して偽りなどではない!!

激動は続く


そうか 少し… 救われたでござる
感謝いたす 斎藤殿
その後 斎藤利三は処刑
明智家の本拠 坂本城は一族と共に 堀秀政により落城し
光秀の政変による 混乱は終わり
時代は新たな 幕開けを迎える

産まれたて


播磨国 国府山城
天下分け目の 戦いに勝ち…
殿も長政も 無事です!!
おおっ
ワシは当分 秀吉様の お側を離れられぬ
帰るのはまだ 先になりそうだ だから…
はい… わかっています
寂しくても光は 我慢いたします
熊之助を軍師に 育てる役目は任せたぞ!!
しませんよ!! 無理ですよ!!
おぎゃあああ


山崎の戦いの四日後
秀吉は本拠地の
北近江国長浜城を
奪い返す
おおー
おおー
63 安息の長浜城
との――!!
無事でよかったで
ござる…
着の身着のまま逃げて…
山間の寺に隠れて15日間…
永住できそう
ねね――!!
おっかあー!!
私が獣を狩って
お義母様が食べられる草
探して生き延びたの!!
とったどー
たくまし――!!

単語に敏感


ごめんね 城を守らなきゃいけないのに逃げ出して…
いったん奪われちゃった…
何を言うでござる
落ち着いて情勢を見極め守れないと判断し
皆の命を優先したのは見事だった!! よくやったぞ ねね!!
男なら良き軍師になっていたかもでござるな!!
メラッ…
嫉妬してる…

命に匹敵


この城を占拠していた京極や阿閉は光秀の敗北を聞き逃げ出した
もう心配はいらぬでござるよ
うん…
金目の物はみんな持っていかれちゃったね…
そんなもんどーだっていいさ!! 大切なのは命だよ!!
さすがおっかあ!!
お義母様の畑の野菜まで…
野菜泥棒は万死に値する!!

思い出した



あの世からでも



お見通し


家督を決めたら――
次は内乱で空白となった領地のどこを誰が治めるか決めないと
もたもたしてると敵大名が動き出す恐れがあるでござる!!
北条
長宗我部
上杉
毛利
天下取りはまた一から？
いや信長様の統一事業をうまく引き継げば八…いや七からかな？
じゃあ秀吉でもできるね
なるんでしょ天下人に

出世男の自信


…なぜ拙者にその気があるとわかったでござるか？
なんとなく…
あと皆が言ってたから「明智を討った秀吉様が次の天下人だ」って
簡単じゃないでござるぞー織田家の重臣を手なずけ大義名分を持ち他大名を制し…
大丈夫よ
あんたは農民から織田家の軍団長にまでなった男でしょ？
ここから天下を取るのとどっちが大変？
……そうでござったな
今までの努力と苦労に比べたらはるかに楽かもしれないでござるな

三四五六もいる


ぎゅっ・・・
久しぶりに会うたが…
ねね やっぱりお主が一番でござるな
殿…
二番は？
今はお福殿かなー
あ

快感


あれ？軽い
ぺし
もう私もいい歳ですし
殿は毎日 多忙の身 他の女子で楽しまれても怒ったりはしませんよ
ただし殿の正室は私です
これだけは譲れませんからね
ああ わかってるでござる
でも ねねの平手打ちが無くなると物足りなくて困るでござる…
はあ はあ
変な方向に目覚めないでよ!!

機会は逃がさない



ねね様ビンタを




歴史上名高い「清洲（清須）会議」
その駆け引きは会議の前からすでに始まっていた
64 会議は準備が大事
何も隠してない
六月十六日 安土城跡
ガラン…
なんという事だ…父上の権力の象徴が焼け落ちるとは…
明智軍の残党が焼いたとの噂です
信長の三男 信孝
おーい信孝ー
兄上…
わりぃ安土城焼いたのオレ!!
マジやべー
信長の次男 信雄
彼は信長と違い本当に純粋に大うつけだったといわれる
えー

よく焼く親子



早い者勝った



迷惑武将



白田なら少し違った



根回し


織田家で野心も無くワシの味方になってくれる者といえば…
やはり親しい柴田勝家だ!!
勝家は織田家の筆頭家老…
だがそれでも日の出の勢いの秀吉には分が悪いかもしれん
勝家の発言力を高めるために何かいい方法は無いか?
………
………
!!
勝家には今正妻はいないはず!!
織田家の誰かを嫁がせ一門に迎えるというのはどうだ?

高齢だし


ニヤリ
うってつけの人がいる…
美貌の叔母上
お市殿だ!!
勝家が叔母上を好いているのは有名な話…
清洲での会議前にこの縁談進めるぞ!!
お市様が我が妻にィィ?
ぷしゃー
あ
衝撃死しなけりゃいいけどな…

軍師ひどい



亡き夫もそう



お市の過去



先手打たれる





清洲（清須）城
信長の尾張一国時代の本拠地であり秀吉が仕え始めた城でもある
65 愛と悲しみの清洲城
昔とはかなり変わったけど
所々面影が残ってるでござるなー
なつかしー
あの木に夢を彫ったのでござる!! まだ残ってるかな？
いつか大名になるぞ 秀吉
そんな事してたんだ…
なったけどね!!
無理
いつか大名になるぞ 秀吉
みのほどをしれ
笑止
めっさ否定されてるー!!

気合空回り



恋というより崇拝



半分どころじゃない



先制口撃



燃えカスあった



誰でもわかる



軍師の無駄づかい



返しの一手



昔から見てきた



グダグダだー




織田家筆頭家老
北陸方面軍指令官
柴田勝家――
支配圏は秀吉より
劣るものの
威厳・格式は上を行く
66 女神争奪戦
存在が反則級
勝家殿が お市様を 娶るなんて… もうダメだ…
えぐっ えぐっ
大げさですすぞ殿!!
甘いでござる… お市様を得た 柴田家は…
官兵衛は わかってないでござる… この縁談の効果を…
柴田殿が織田の一門に なるって事でしょう?
仕官続々 家中団結 兵力増強
あの御方のためなら えんやこら状態に なるでござる…
すげえな お市様って!!

がんばった



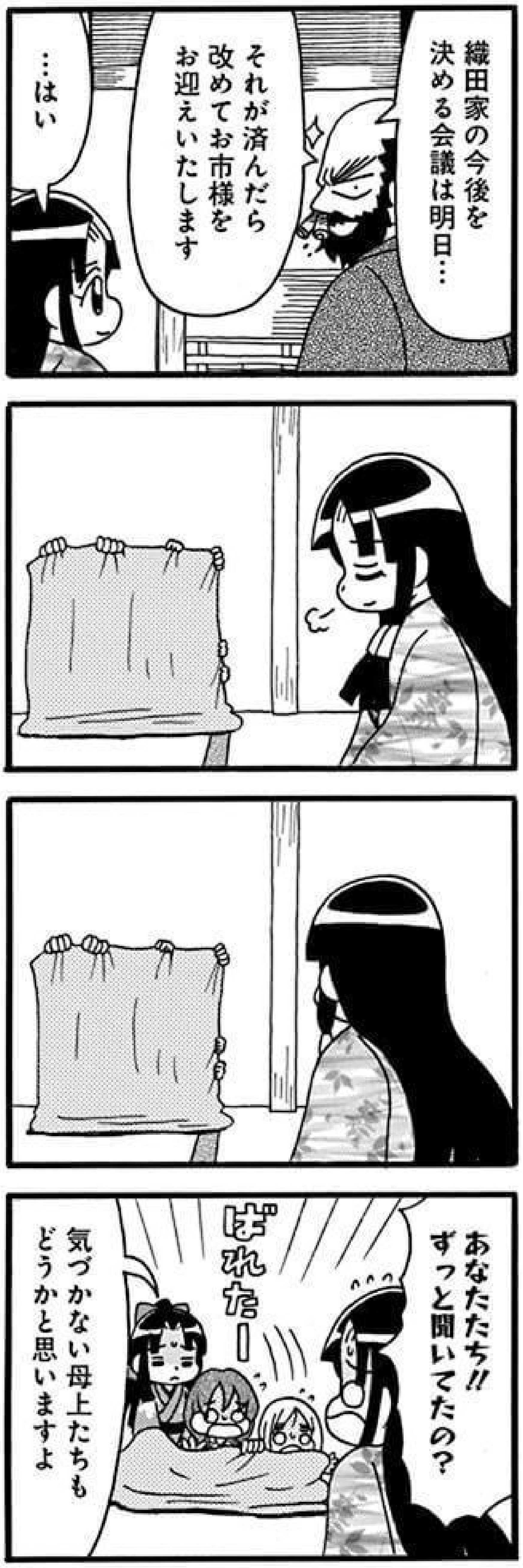
ちょっと引く



カッコつかない…



成功するとは



言っちゃった



通りすがり丹羽さん



聞こえてしまった



こっちもカッコつかない



たしかに上手



絶対勝てないし





最初の議題は
織田家の家督（当主）を誰が継ぐかだ!!
前々当主 信長
前当主 信忠
三法師
信雄
信孝
67 天下を決める会議
信長様は七年前すでに信忠様に家督を譲っていた…
だから信忠様の子の三法師様が継ぐのが筋…
次の候補は信長様の次男・信雄様…
ありえない
だが幼い!!
まだ三歳!!
不安だ…
皆で支えねば政治はできぬ…
だがバカだ!!
そうバカだ!!
失礼ながらバカだ…
織田家が誇る日本代表候補のバカだ…

満場一致



その次の…
三男・信孝様は
それなりの器だが
仮に家督を継いだら
なんで信孝なんだよ
オレは認めねーぞ!!
だったら
戦でケリを
つけるぞー
織田家が大混乱になる!!
やっぱりダメだ!!
三法師様で
よくね?
うん
うん
案外すんなり
決まったといわれる

なぜわかる



始まりましたね
会議…
後継者選びは
すんなり三法師様で
落ち着くでしょう
問題は今回の変で
空白地となった
「欠国の分配」と
会議の「主導権」
ですからな…
いたた……
遠くで誰かの
目が傷んだ!!
行かねば!!
すごいな
目薬屋!!

官兵衛と茶々



初のお得意様



大要求



頑張ってよかった



ひとり格下


丹羽殿は殿の実力をわかっている!!
後押ししてくれるはずです
チラ
勝家殿 やはり武功を立てた者が多くの領地を得るべき…
秀吉殿の言い分がもっともである!!
さすが官兵衛…
そして池田殿は
正直 数合わせのようなものなので置物になってくれるはずです
カチコーン
さすが官兵衛ー!!

販路拡大

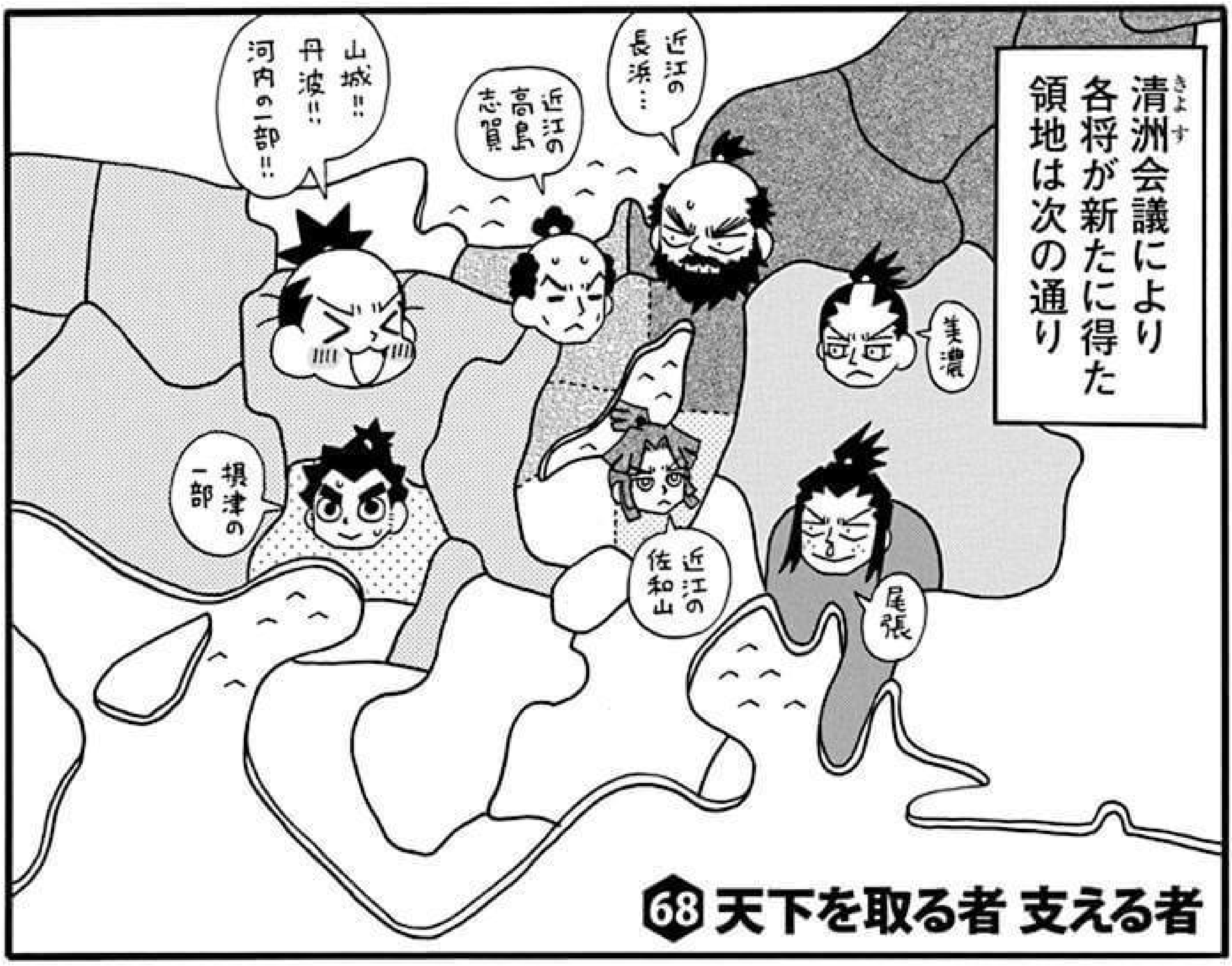

しかし筆頭家老のワシの領地が増えないのは織田家中が不審に思うだろう
秀吉の長浜あたりをワシに譲れ!!
長浜!!
北陸の柴田領を拡げ中央に睨みをきかせる気か!!
くっ…
しからばー…そうだ堀秀政殿に佐和山城を与えよう!!
堀は秀吉派… ワシへの壁にするつもりだな!!
ぬ…
その頃の軍師
玲珠膏がみんなに広まる…
目的達成できたぞー
全然でしょー
会議終わってないでしょー

切り札

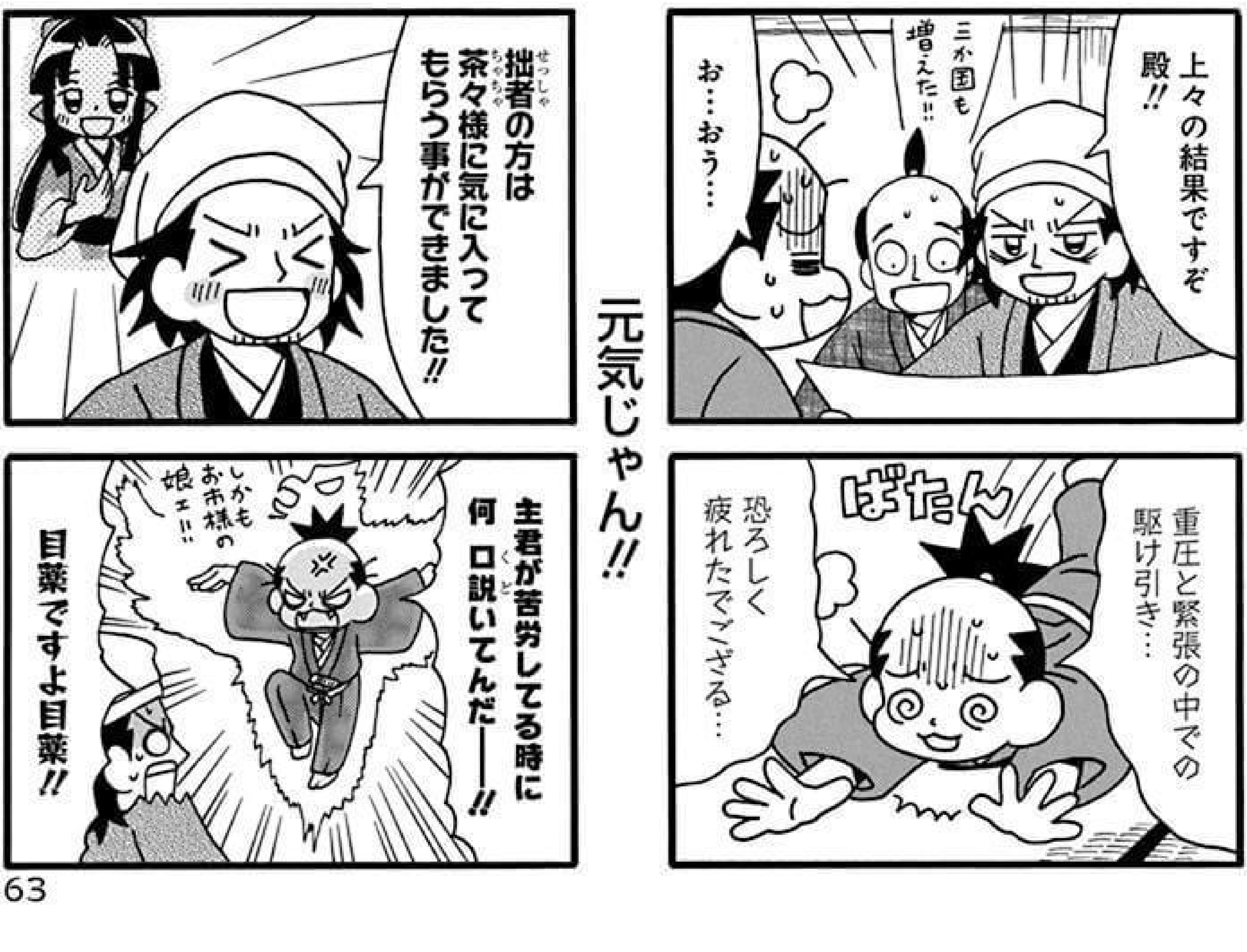


でも死ぬほどくやしい





68 天下を取る者 支える者



絶対握れない



英雄だからな!!



聞いてて恥ずかしい



結びつかない



乱世を知る姫



望みは捨てない



めんどくさい軍師



※お市がやりました

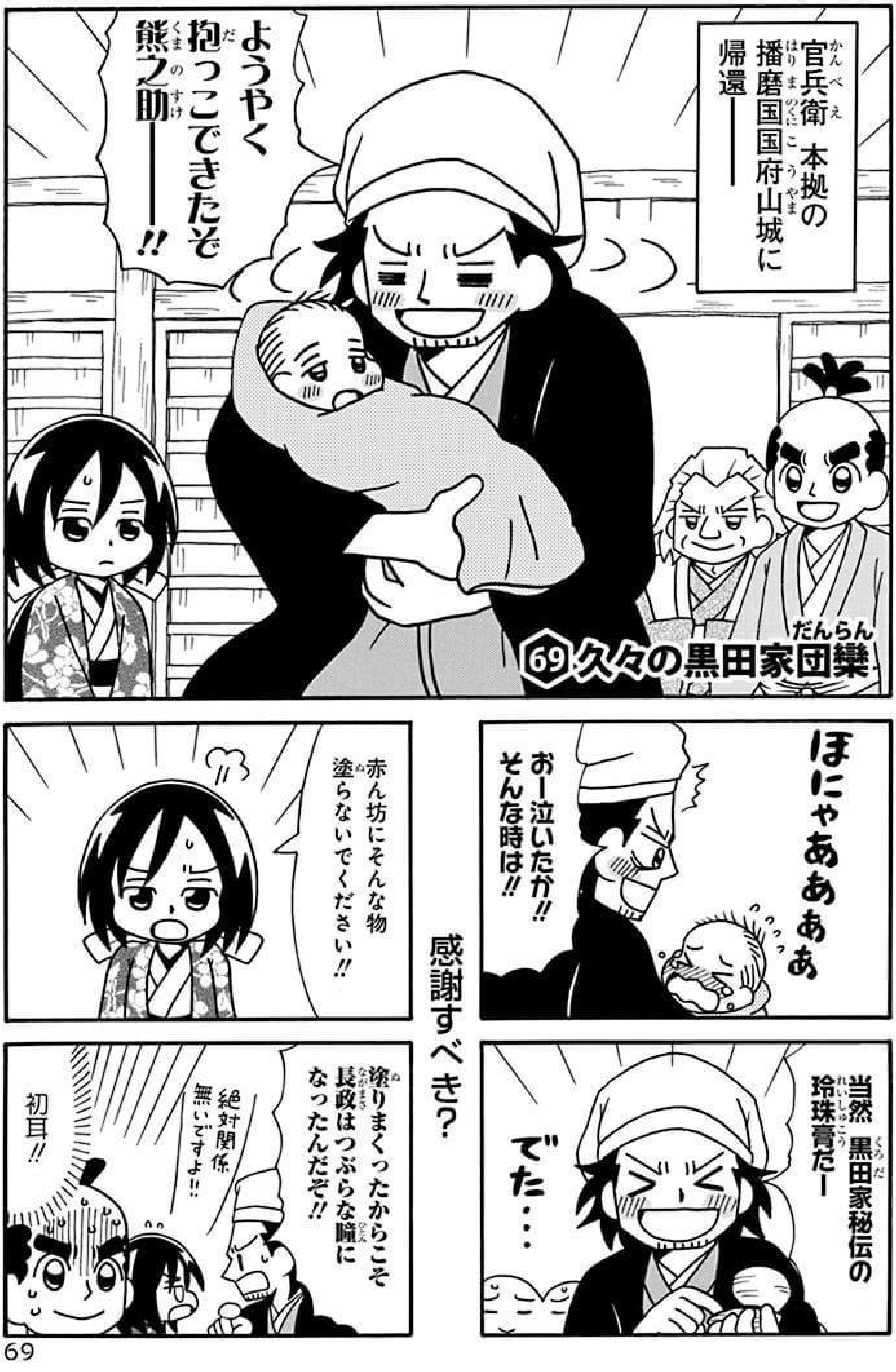


相入れない二人



遅れてきた重臣




官兵衛 本拠の播磨国国府山城に帰還――
ようやく抱っこできたぞ熊之助――!!
69 久々の黒田家団欒
ほにゃあああぁ
おー泣いたか!! そんな時は!!
当然 黒田家秘伝の玲珠膏だー
でた・・・
感謝すべき?
赤ん坊にそんな物塗らないでください!!
塗りまくったからこそ長政はつぶらな瞳になったんだぞ!!
絶対関係無いですよ!!
初耳!!

ひっかき攻撃



ワシの存在が



久々なのに


まあ光よ 積もる話は その…なんだ…
ピーン
では殿!! 拙者は帰って休みます
歌の練習してきまーす
部屋で一杯やるかな～
そそくさ
そうですね 今夜は二人で…
天下のゆくえの事を語り合いましょうか
スタスタ
いやもっと愛とかさ…

久々だから


パタン
んじゃ清洲会議の結果から話そうか…
?
殿…天下のゆくえの話は…
ちょっとくっつきながらだってできますよ
だよな光うー!!
がばぁ
ちょっとですよ ちょっと!!

月 見上げてもダメ



刻とも戦う



大説得中



長浜城を柴田殿に渡す事になった秀吉様は今後は山城国の山崎に城を作り本拠とするらしい
なるほど
山崎は京に近く政治を行いやすく
東側の柴田陣営との戦にも兵を出しやすいですからね
長浜
京
山崎
瞬時にそれを理解するとは…
やはり光は最高の妻だな
ぎゅー
と 殿!! 苦しい!!
その頃の羽柴家
京の近くに住むー? 私みたいな田舎娘が?
畑が少なそう!! 反対!!

夢だった



一方 柴田勝家とお市は信孝の岐阜城で婚儀を行う
これで勝家も"織田一門"だ!!
お市様… 今 織田家は大変な時
ゆっくり話す暇も無いかもしれませぬ
はい… わかっております
だから交換日記しませんか イヤしてみたい!!
夫婦なのに?

最大の失敗



決意さらに固く





越前国北ノ庄城
尾張と比べるとやはりこちらは涼しいですね
お市様!!
70 織田家まっぷたつ
もう…勝家殿
夫婦になったのですから「市」とお呼びくださいませ
で では…
言ってみたかった
信長様の妹君を呼びすてなんておそれ多い!!
くす…
それではいつまでたっても夫婦になれませんよ
間をとって「お市たん」で…
いーちーで!!

集中できるのか



ひたらせて



幸せですけど!!



落ちぶれモード



きれいな豪傑


十月 勝家は 秀吉に書状を送る
「内輪もめは止めて 敵対してきた北条家と 戦おう」…とな…
この期に及んでも まだそんな事を…
バサ…
拙者と手を取り合って 行こうというのでござるか
美しい…
勝家殿は 本当に美しいで ござるな…
顔は むっさいのに…
と 誰もが思って 口をつぐんだ

先手


だが…できぬ!!
信長様はもう いないのだ…誰かが 強い力で引っ張って いかねばならんのだ…
ばん
もう拙者は 後戻りする気は 無い!!
では…やはり あれを実行に 移すのですね
うむ
まだ行われていない 「信長様の葬儀」
拙者が 仕切るでござる!!

ついに脱却


しかしこれには信孝様 信雄様 織田家の重臣 皆 反対しております
そこまでしてやる意味あるのか？
みんな人心掌握についてはまだまだでござるな
大事なのは大々的に葬儀をする事によって——
信・長・様・の・後・を・継・ぐ・天・下・人・は・秀・吉・で・あ・る・と・世間に知らしめる事でござる!!
それによる効果は果てしなく大きい!!
さあ信長様に供える甘い物を集めよ!!
これが拙者の本当に最後のパシリでござる!!
やっとかー!!

真の決別


天正十年 十月十五日 秀吉は養子の秀勝（信長の四男）を喪主とし葬儀を行う
豪華に飾り立てられた法要は十七日間に及び
見つからない信長の遺体は代わりに木像が作られ荼毘に付されたといわれる
信長様…
今後は殿の意に反する事をしてしまうと思います
いつかあの世で思いきり叱ってくださいませ

ウジ虫再び


秀吉が葬儀を強行しおった…
織田家の主だった者は誰一人参列していないというのに!!
これでも秀吉を放っておくつもりか!!
…いや!!
これ以上 秀吉の好きにはさせない!!
そうだ!! 今こそ北条戦惨敗と清洲会議遅刻の汚名返上の時だ!!
すまぬ 思い出させてしまって!!

全面対決へ


秀吉よ…
おまえとワシの思い描いた理想はあまりにもかけ離れていたのだな…
自らの野望か?
それとももう織田家では天下を治められぬという判断か?
いずれにせよワシもワシの信じる道を行くぞ
信孝様
織田家に仇なす逆賊
羽柴秀吉を討ちましょう!!


お市様…いや市
ワシは決めた
秀吉を討つ!!
71 二人は争い合う運命
…やはり
そうなりましたか
つくづく
思う…
雑用時代
秀吉は領地も味方も多く
倒すのは容易では
ないだろう…
昔はいくらでも斬る機会
あったのにな－と!!
たしかに…
それ言い出したら
きりがありませんよ

軍師どこ？


我らは百戦錬磨の柴田軍団!!
秀吉に目にもの見せてくれようぞ!!
おおー やってやんぜー
秀吉がなんぼのもんじゃー!!
おおおお
どうだ!! 我が頼もしき家臣団は!!
脳筋ぽい人しかいない…
逆に不安…

順番的に


信孝様(柴田派)の手元には織田家当主・三法師様がおられます…
戦を仕掛けるには大義名分が足りません
そこで!! 一時的にこちらも・・・織田家当主を・・・作り上げるのが・・・得策かと
なるほど!!
しかし不安もあります…
たしかに… だってその新当主は…
あの
信雄だから…
マジマジ

2コマで限界



そのままの君でいて



理由がある



いいから来て!!



あきらめて!!



なんでござる?
この急な和睦…戦いたくないからではありません
むしろ柴田殿は戦いを決意したからこそ
刻を稼ぐための和睦!!
柴田殿のいる越前はもう雪が降り出す頃…
兵を動かせなくなるためできるだけ戦はしたくないのです!!
そして…寒いからって勝家とお市様は布団で温め合うのでござろうな…
あー…
否定はできないけど!!

友として



お待たせいたしたした
和睦は望む所でござるが…
他の宿老の丹羽殿や池田殿とも相談せねばならん
「誓書」は追ってしたためるでござるよ
ぞろぞろ…
前田殿
いや利家
まつ殿は元気でござるか?

恐怖もよく知ってる



下克上開始




さらば織田家!!
さらばです信長様!!
秀吉は柴田勝家の甥・勝豊の守る長浜城を五万の兵で取り囲む
72 春よ来ないで
ゴゴゴゴゴゴ
よく守れたね
つまり弱点も知ってるという事ですな?
ふふふ…
長浜城は元々拙者が作った城…
おう!! ひそかに三十個くらいあるでござるよ!!
住んでた時に直してください!!

まだ前座



二日後 柴田勝豊はあっさり降伏する
よっしゃ 数の勝利!!
やっぱりいいなー 長浜城は
天守からの眺め サイコー
風呂も快適!! あーくつろげるー
本命はここじゃないでしょ!! 岐阜城攻めますよ!!
せめて着させてー

そして敵かよ!!



秀吉は間髪入れずに 織田信孝の守る 岐阜城を取り囲む
ついに織田家に弓を引いたか秀吉…
しかしこの美濃国には!!
歴戦の強者 森・稲葉・氏家がいる
ヤツらが集えば 秀吉など——
そのへんみんな秀吉側に付きました!!
集わねえのかよ!!

はしゃぐお飾り



実感わかない



図に乗るお飾り



ちぐはぐ反秀吉



お役目とはいえ



慣れたもの



うつけの教え



戦が始まる





天正十一年三月
柴田勝家は
打倒秀吉に向け
出陣する
「賤ヶ岳の戦い」の
始まりである
おおおお
73 守る者と進む者
ご武運を
お祈りしております
うむ 皆…
体に気をつけるのだぞ
…はい!!
名物になる
次の冬も
また共に
この城で
雪を見よう!!
次は天守閣より大きい
お市雪像を…
ブツブツ
作らせませんからねー

無理だし!!



すごくなさそう



現場の大将



すべてを守る!!



すごいけどさ



いまだ衰えず



よせばいいのに



短絡的で…



動き出す軍師



続いて前後




作戦はこうです
秀吉様が二万の兵を率いて岐阜の織田信孝討伐に向かう
柴田軍は好機とばかりにここに攻めてくる…
我々はこれを防ぎ秀吉様は大返しして柴田軍と戦う!!
74 大返しふたたび
ゴクリ…
そう 我々が生け贄となる作戦です!!
死にそう…
信孝を攻めつつ柴田軍をおびき出すわけだな!!
やる価値はありますね!!
そう言われるとやりたくなくなるな…
軍師殿…言葉を選んでください…
あ

戻っても負ける



身も心もなって!!



不測の事態



四月十六日
秀吉は二万の兵を率い
岐阜へ向かう
ワシは秀吉だ!!
ワシは秀吉だ!!
?
これでこの辺りは
手薄になったぞ
柴田はどう出る?
ドクン
ドクン
さらに時をほぼ
同じくして
はあ
はあ
秀吉方の武将
山路正国が勝家方に
寝返るという事件が起こる

直すの大変



柴田勝家陣
チュン
チュン
叔父貴!!
朗報だ!!
寝返ってきた
山路殿によれば
秀吉は兵を率いて
岐阜に向かったそうだぜ!!
勝家の甥
佐久間盛政
ムク…
そうか…
好機到来か!!
ヒゲにも寝グセって
つくんだな…

百戦錬磨の読み



恐るべき直感



猛攻開始


佐久間隊八千に
大岩山砦を
急襲されました!!
余呉湖
来たか…
守りの脆弱な砦を
狙われたか!!
秀吉様が来るまで
持ちこたえねば…
ぐわっ!!
守将・中川清秀様
お討死!!
大岩山砦は
落とされました!!

時代は脳筋？


隣の岩崎山砦の
高山右近も早々に
砦を捨て退却する
神が退けと
言っている!!
わー
どうだー!!
秀吉軍が
なんぼのもんじゃー
おおお
柴田軍…
強い!!
軍師と呼べる者は
いないはずなのに…
お味方に
「軍師不要論」が
ささやかれてる
ようです!!
やば――!!

結構 過保護



今行くぞみんな




秀吉「賤ケ岳の戦い」にて生涯二度目の大返し決行!!
75 走れ!! 秀吉軍
天下人本人
柴田軍はまんまとおびき出された!!
ワシらが駆けつければ勝利は間違い無しだぞ!!
そうか!! 天下人の自覚を持ち始めたから…
ふふ…
秀吉様が「拙者」と「ござる」を言わなくなってる…
影武者使う事にしたのか!!
似てるなあがんばれよー影武者ー

みんなに広めた



指示にならない



智将は智将



北近江の戦況
佐久間隊に続き 柴田本隊 前田隊も 陣を前進!!
ズ・ズッ
大丈夫だ…秀吉様は必ず戻って来る!!
もし…間に合わずに負けた時は
責任を取って
軍師を辞める!!
ざわっ
参謀・黒田官兵衛になる!!
いまいち違いが!!

援軍より愛



秀吉様が来れば孤立している佐久間盛政を打ち破れるのだが…
殿ォ――――!! 来ましたぞ!!
おおっ
光様より励ましの手紙が!!
援軍よりもうれしい♡
んなわけないでしょー

見る目がある!!



取り戻せ栄光



照らす炎



「なんか道あった」



継がれた読み



みんなパッチリ




佐久間盛政を追撃せよー!!
おおおお
退却を…
読まれただと？
76 天が選ぶのは
兄上!! なぜ佐久間が退却するとわかったのですか？
さすが秀吉様だ…
ゴク…
勘だ!!
百戦錬磨のワシの勘が言っていた!! 今晩必ず退却すると!!
そしてワシは天下を取って女子に囲まれた生活を送れると!!
それ勘じゃなくて願望です!!
叶うけど

継いでいた


ドカッ
グザッ
おおおお!!
むざむざやられるか!!
見よ!! 一族・佐久間信盛ゆずりの…
どん
神速退却ー!!
さすが「退き佐久間」の一族!!
秀吉軍はなかなかとらえられなかったといわれる

単純軍師


チュン チュン
おー
夜も明け他の隊とも合流できた!! これで戦えるぜーー!!
どうします兄上!! 我が軍は皆疲れ果ててます!!
算術でも佐久間隊に勝てる確率は三割…
パチパチパチ
ふん!!
石田殿… 戦に算術などあてには…
チーン
官兵衛殿の軍略をもってしても五割です
え? 二割も上がんの?
信じていいかもです!!

知名度優遇


ここで佐久間隊を倒せるか否かでこの戦の勝敗は決まる!!
退かぬぞ!! かかれー!!
この時 活躍したのが「賤ヶ岳の七本槍」と呼ばれる男たちである
加藤清正!!
福島正則!!
その他
ええー
片桐且元!!
脇坂安治!!
加藤嘉明
平野…
糟屋…

迷える猛将


おおおおおおお
鍵を握るのは…あいつだ!!
あいつが加われば勝てる!!
前田利家!!

誰か押して



何してくれてんの



もう遅い


ワシは秀吉とは戦えん!!
退却する!!
前田隊が…
退却を始めましたー!!
なにイイイイ
前田隊が退却したら…
敗北は決まったも同然じゃないかー
負けんの?
まじか!!
逃げようか
どよどよ
あーしまったー

なぜお約束


前田隊に続いて金森長近隊も
ワシらも抜ける!!
不破勝光隊も退却を始めました!!
こんな事が起こりうるのか…
パチパチパチパチ
またやってる…
パチパチパチパチ
秀吉様の勝つ確率が上がっていく…
八割…九割…限界を超えて…
ボーーン
どうなってんだよその算盤!!

筆頭家老の意地



天下は任せた





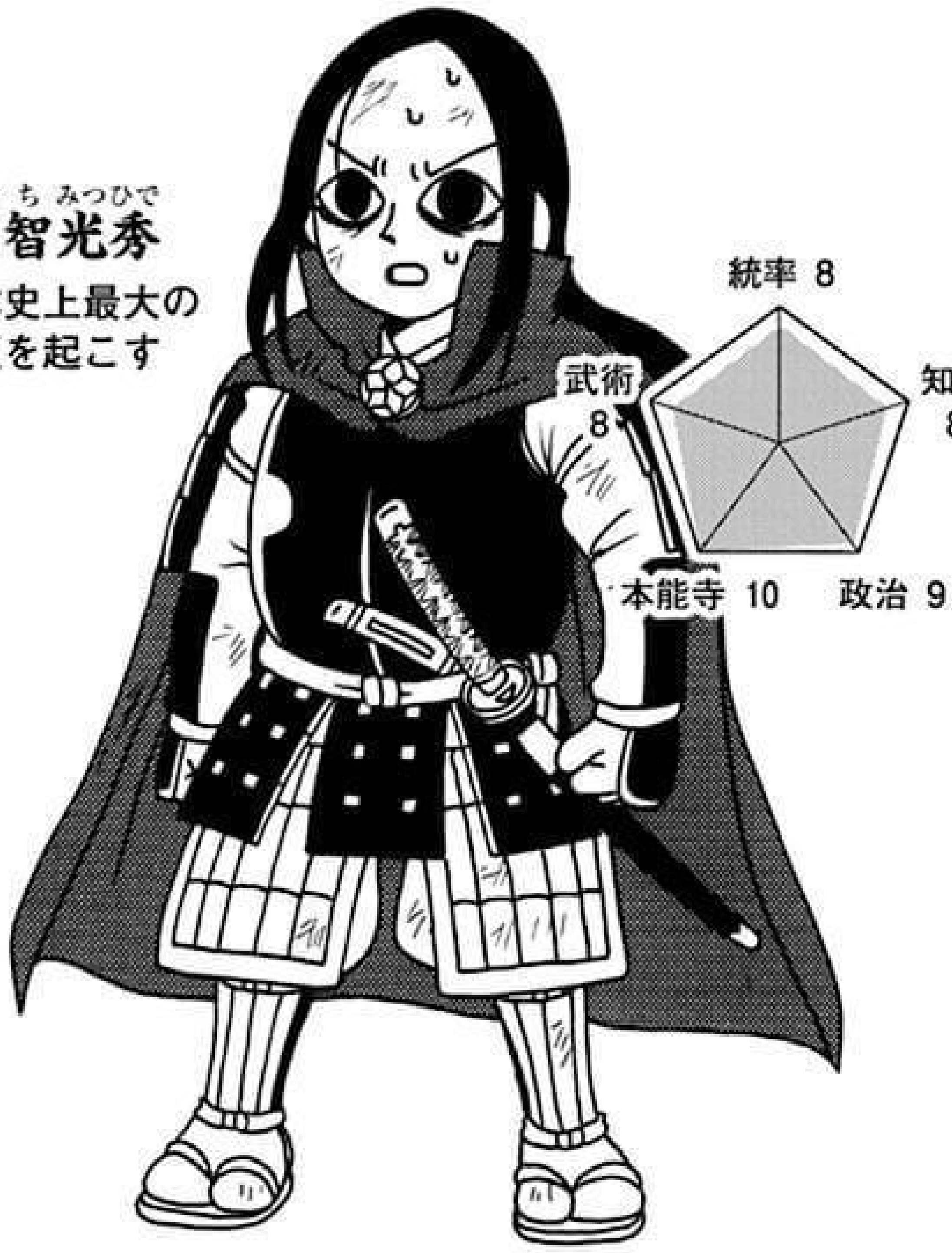
秀吉あってこその官兵衛であるとも
言えるので彼の事績も丁寧に
描いて行きたいです。

重野なおき

戦国武将名鑑④

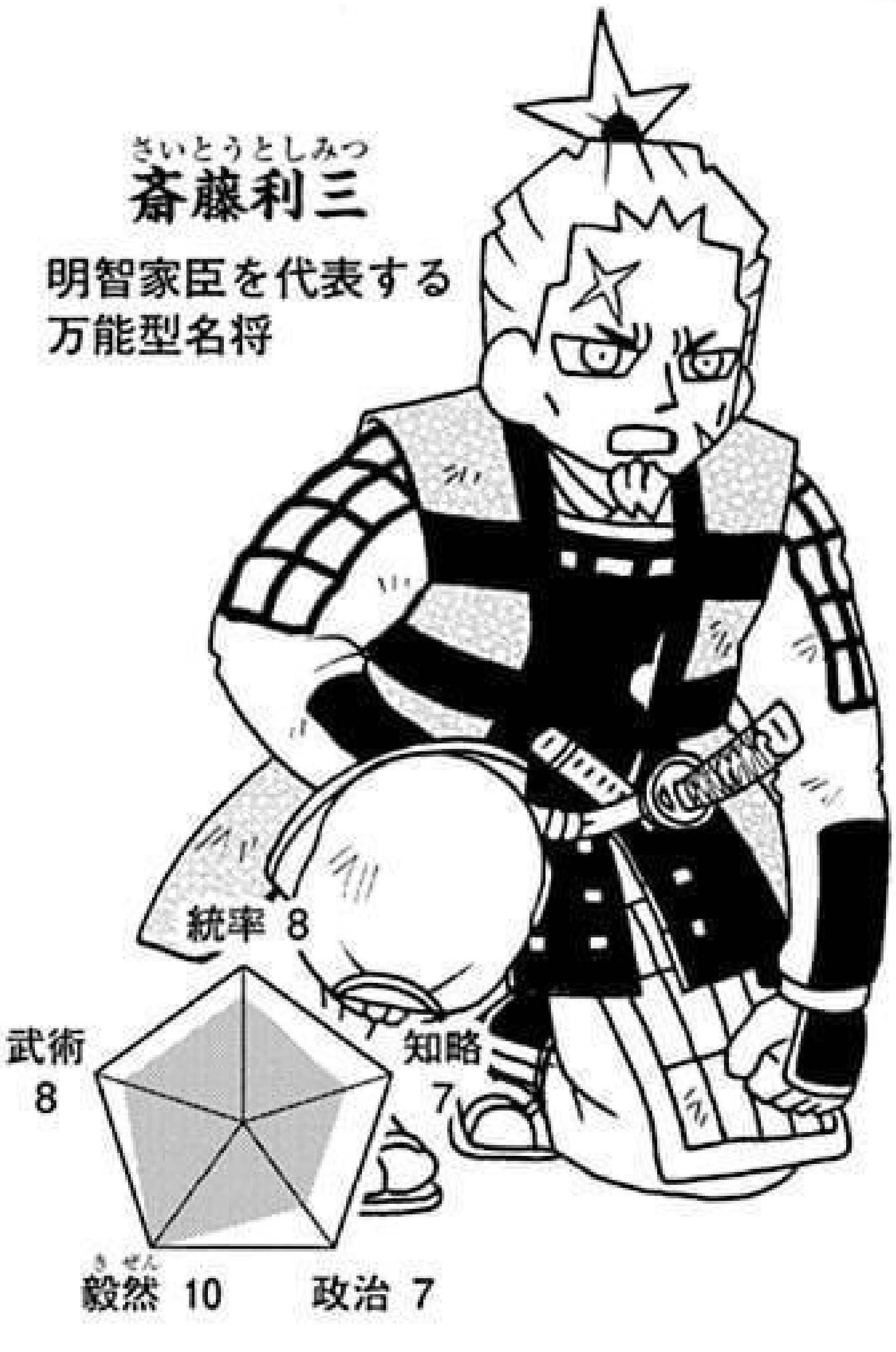
明智光秀（あけちみつひで）

日本史上最大の
謀反を起こす



斎藤利三（さいとうとしみつ）

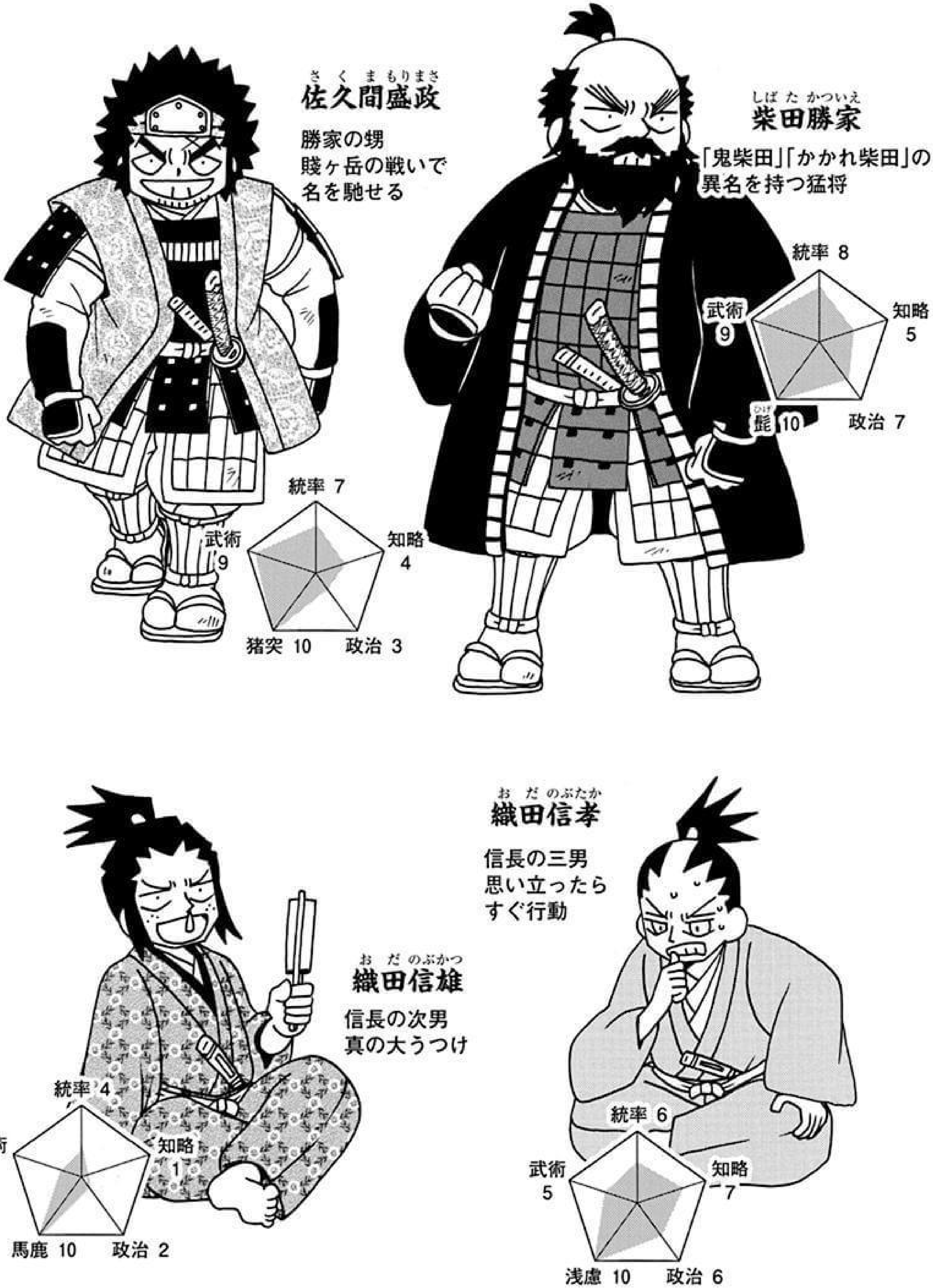
明智家臣を代表する
万能型名将



溝尾庄兵衛（みぞおしょうべえ）

明智家臣
古くから光秀を
支える




佐久間盛政（さくま もりまさ）
勝家の甥
賤ヶ岳の戦いで
名を馳せる
統率 7
知略 4
政治 3
猪突 10
武術 9
柴田勝家（しばた かついえ）
「鬼柴田」「かかれ柴田」の
異名を持つ猛将
統率 8
知略 5
政治 7
髭（ひげ） 10
武術 9
織田信雄（おだ のぶかつ）
信長の次男
真の大うつけ
統率 4
知略 1
政治 2
馬鹿 10
武術 3
織田信孝（おだ のぶたか）
信長の三男
思い立ったら
すぐ行動
統率 6
知略 7
政治 6
浅慮 10
武術 5

SOW×軍師 黒田官兵衛伝

4巻刊行記念祝電寄稿

「藤巴の旗の下で」

イラスト◎重野なおき

天才軍師の父と、

その息子。

思い出は色褪せることなく。



一五八二年、本能寺の変。
一五九八年、豊臣秀吉死去
一六〇〇年、関ヶ原の戦い。
一六一五年、大坂夏の陣……豊臣氏滅亡。
一六一六年、徳川家康死去。

　これは、「日本一の軍師」を目指した男、黒田官兵衛がこの世を去り、「戦国」という時代が終わった後の、黒田家のある日の話である。

　この日、黒田家屋敷において、当主黒田長政は、あるものを目にしていた。

「おお……これは……なんと壮大な!!」

　六曲二双——全十二面で描かれた、「大坂の陣」を描いた合戦屏風。

　縦五尺(約一メートル半)、横四間(約七メートル)に及ぶ、後世に「黒田屏風」と伝えられる、古今最大規模のものであった。

「よくやってくれた、一成!」

「は!」

　長政の言葉に、誇らしげに応える巨漢の男。

　黒田家に仕える家老、黒田一成である。

「しかし、よろしかったのですかな、殿?」

「なにがだ?」

　大屏風は、右隻には、徳川家を始めとした、武将たちの勇猛なる姿が描かれている。

　だが左隻には、逃げ惑う町民たち、殺される子供、命乞いをする老人、乱暴狼藉を受ける若い娘たちなど、地獄のような光景である。

「幕府の不興を買うのではありませんかな?」

　徳川幕府は、「大坂の陣」を、天下泰平のための「聖戦」として行った。

　日本の戦を終わらせるため、豊臣を成敗する——その戦が、こんな凄惨極まりない、「地獄絵図」を生み出したなど、幕府にとっておもしろかろうはずがない。

　それを長政は、後世にまで残そうとしているのだ。

「これが、戦だろう。一成」

　だが長政は、全てわかった上で、これを描かせた。

「戦とはこういうものであるはずだ。強き者が弱き者を殺し、滅ぼす、そうだろう」

　殺し、殺され、裏切り、裏切られる——それが戦である。

「だからこそ残さねばならんのだ、ワシらが……。戦とは、こういうものだと。それを伝えねば、その時代を生き抜いた者たちの偉大さは伝わらぬ」

　覚悟、信念、理想——様々な呼び方があるだろう。

　あの時代の中、「天下布武」を叫ぶこと、「皆が笑って暮らせる世の中にする」と笑うことが、どれだけ偉大であったか。

「これが、ワシらの最後の務めなのだ」

　戦国の最後の世代の務め——これこそが己の義務だと、長政は考えたのだ。

「きっと、父上も褒めてくれると思う」

　長政の脳裏に、官兵衛の顔が浮かぶ。

「もしも、キレイ事だけで作り上げたものを、『黒田』の名を冠して残しでもすれば、父上に枕元に立たれて蹴り飛ばされかねない」

　官兵衛や、多くの先達が築き上げた「歴史」は、そんな生易しいものの上に立っていない。

「ワシは父上の足元にも及ばなかった……だが、黒田の家の男として、その誇りだけは全

うしたいのだ」

「殿……そんなことは……！」

「一成、自分のことは、自分が一番わかっている」

黒田長政は、間違いなく名将である。

関ヶ原の合戦においては武功一番に数えられ、徳川家からは「天下を取れたのは黒田の力あってこそ」と讃えられた。

それでもなお長政は、自分は父親に及ばないと考えていたのだ。

「勘違いするな。自分を蔑んでいるんじゃない。むしろ逆だ。父上は……血縁だとか、そんなものですごかった人じゃないんだ。戦国というあの時代の申し子の一人だった。だからこそ、強く、立派だったのだ」

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康……綺羅星のごとく輝いた一人に、己の父もいるということを、長政は誇りに思っていたのだ。

「まぁ……困ることと言えば、そんな人の跡を継いでしまったものだから、凡人としては苦労の連続ということだな」

少し皮肉げに、そして楽しげに、長政は笑う。

「立派ですよ、殿は」

長政の笑顔を見ながら、一成は、実父から聞いた話を思い出した。

かつて官兵衛は言ったという。

「だからこそ、その分手を伸ばすんだ。それが、足りない者が、足りている者に勝つ、唯一の方法なんだよ！」——

自分の力が足りぬことを知ってなお、それをあきらめる理由にしない。

それこそ、黒田の男の強さなのかも知れない。

「ま、とはいえだ」

これだけは譲れないとばかりに、長政は言う。

「戦国の知略家としては及ばぬが、勝っているものもいくつかあるしな」

「はぁ……どういったところで？」

「さしあたっては兜の審美眼に関してはワシのほうが上だと思うんだよ！」

「あ〜、大殿……ねぇ……」

官兵衛の兜、「合子形兜」は、一言で言えば、「お椀」の形である。

「でもあれ、殿の母方のお祖父様が贈られたものでしょ？」

「お祖父様……どういう審美眼の人だったんだろう」

一応、「敵を呑む」という意味があると言われている。

「いろんな価値観があるんですよ。聞いたことありますよ。どっかに、兜に毛虫の飾り付けるのにこだわっていた人がいたそうです」

「世の中色んな人がいるよなー」

戦国期というのは、いろいろと、奇抜な感性が存在した時代なのだ。

「まーその点、ワシの兜とか超かっこよかったから！」

長政の兜は、「水牛脇立桃型兜」——桃型の流線形に、水牛のような雄々しい巨大な角が二本伸びた、戦国後期の中でも屈指の勇壮さを誇る兜である。

「ただ……」

そこまで話して、長政の声が落ち込む。

「あれ、福島殿に渡しちゃったんだよなぁ……」

「もう二十年前の話でしょ、どんだけ引きずってんですか！」

長政は、福島正則とある問題で険悪な関係

となった。

結果として和解したものの、その際に「和解の証」として、互いの兜を交換したのだ。

関ヶ原や大坂の陣で、長政が被っている兜は、その際に交換した、「一ノ谷の兜」である。

「お気に入りだったんだよあれー！」

（意外なとこを引きずる人なんだよなぁ……）

基本的に公明正大な長政であるが、私人としての顔は別なのであった。

「でも福島殿と交換した兜……かの竹中半兵衛様の遺品でございましょう？」

その「一ノ谷の兜」の由来を思い出す一成。

「ああそうだ……ワシと、父上にとって、尊敬すべきお方のものさ」

若くしてこの世を去った天才軍師竹中半兵衛の、遺品の一つである。

「ただなぁ……半兵衛様、あの兜かぶっているとこ、見たことなくてな」

「そういえば……肖像画も、魚鱗兜ですね」

「思ったんだがな。あの兜って、面積すごいだろ」

一ノ谷の兜とは、源義経の「一ノ谷の戦」の活躍にちなんで作られたものである。

その形は、まさに「一ノ谷」を表しており、大きな後立が付いた、なにも知らぬものが見たら、兜に大きな板がくっついているような形状である。

「自分で被って実感したんだが、あれ風の抵抗モロに浴びるんだ。強風の時とか、何回か首グキってなりかけた。だからな……」

長政の記憶にある半兵衛は、知的な眼差しと温和な笑顔、そしてなにかあったら吐血する不健康体質である。

「半兵衛様があれ被ったら、首が折れるぞ、最悪モゲる」

「なんでそんなモン自分で作ったんですかねぇ」

「作ってから気づいたのかなぁ」

重ねていうが、戦国という時代は、いろいろ奇抜な感性が存在した時代なのだ。

「あとアレだぞ、目のつぶらさとか、ワシのほうが上だ」

「また細かいとこ攻めますね」

さらに、「自分が父に勝っていたところ」を主張する長政に、そろそろ一成も呆れ始める。

「いや重要だぞ！『日本一の軍師』と呼ばれる前に、『日本一の目薬好き』で有名になっちゃったのに、本人は目の下にクマ作ってんだから」

本人曰く、「毎晩遅くまで兵法書を読んでいたからだ」とのことだった。

「あの目付きの悪さのせいで、悪者っぽいと噂されることもあったしな」

「大殿、ただでさえせっかちで失言が多かったですから、余計に誤解されましたよね」

「医者の不養生というのかなぁ、あれほど目薬に情熱を燃やし、暇さえあれば配り歩いていたのに」

「ねぇ」

「大広院様にまで差し上げたのに」

「大広院様にまで!?」

大広院とは、秀頼の生母、関白秀吉の妻のことである。

「どこで……？」

「さぁて、ワシも伝え聞いただけだからな」

だが、あの官兵衛である。

やっていてもおかしくないと、長政は確信していた。

「ふむ……」

改めて、長政は眼前の大屏風に目を向ける。

（大広院様は、いたく玲珠膏を御気に召してくださったという……）

その大広院は、大坂の陣で、大坂城落城とともに、自害して果てた。

（父上は哀しまれるかな……）

官兵衛は、軍師として、戦とあらば容赦のない男だった。

だが……無駄な殺生を好まず、命の大切さを知る男でもあった。

「これも戦国の倣い」としながらも、それでも、哀しむだろうと長政は思ったのだ。

「そういえば……一つお伝えしなければならぬことがございます」

物思いに耽る長政に、打って変わって、一成は重い声で言う。

「この屏風絵を描いた者たちのことなのですが」

「ああ、十分にねぎらってやってくれ」

これだけの大作である。複数の絵師たちによって描かれた。

「その中の一人が、荒木村重の息子だそうです」

「なんだと……!?」

荒木村重――摂津一国を任されながらも、突如裏切った元織田家家臣である。

「あの男が……大殿にしたことは、憶えてらっしゃいますな?」

「無論だ……忘れたくとも、忘れられん」

反逆した荒木を説得しようと、官兵衛は単身有岡城に乗り込み、そこで捕縛。

丸一年に渡り幽閉される。

そして織田家に人質とされていた息子の松寿丸……幼き日の長政は処刑を命じられた。

「あの時……半兵衛様がおらねば、ワシは……死んでいた」

当時、長政はまだ十一歳であったが、一度は死を覚悟したほどである。

「父上は、一年の土牢暮らしで、前髪は禿げ上がり、片足が不自由となって、一生杖が手放せぬ体となった……」

ろくな食事も与えられず、夏はうだるほどの暑さ、冬は凍えるほどの寒さ。

助け出された官兵衛の姿は、歴戦の武将たちをして、息を呑むほどの壮絶なものであった。

「忘れられるわけがない……!」

黒田家にとって、大げさではなく、存亡の危機だった。

「どう、いたしますか?」

一成が問いかける。

〝なにを〟とは言わない。

だが、長政が首を縦に振れば、一成はすぐにでも荒木の息子のいる部屋へと赴き、一刀で斬り殺すであろう。

「…………」

しばし、無言になった後、長政は言う。

「一成……荒木の一件は、黒田の家に危機をもたらした。だが、あの危機があったからこそ、得られたものも多い」

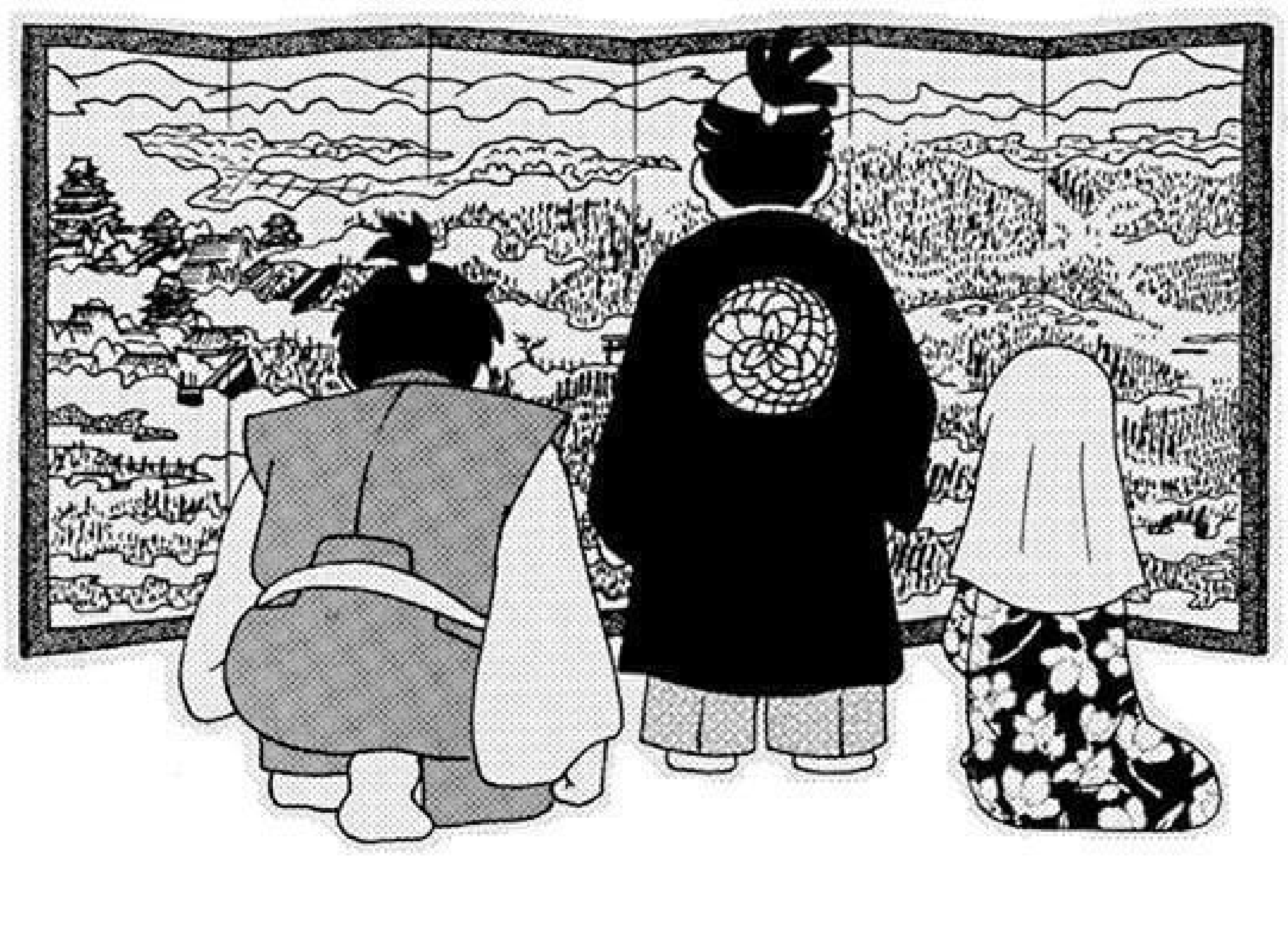
不屈不撓の男として、織田家を始めとした諸将にその名を知らしめ、官兵衛は「日本一の軍師」の道に、大きな一歩を示した。

だが、それだけではない。

「あの一件があったればこそ、黒田家は……

おぬしという名臣を得たのだ。ワシや父上に言わせれば、つりが来る大収穫だぞ？」
「はっ……いや、あの……!?」
いきなりべた褒めされ、戸惑う一成。
黒田一成――黒田家の家臣団の中で、栗山善助や母里太兵衛とともに、「八虎」と讃えられし武将にして重臣である。
彼は幼少の頃に、官兵衛から養子として黒田家に迎えられた。
実父の名は、加藤重徳。
有岡城で幽閉された官兵衛に惚れ込み、彼を支えた「牢番殿」である。
「その絵師の労をねぎらってやってくれ。他の絵師たちと同様にな」
話はそれで終わりとばかりに、長政は告げる。
（なんとも……お優しい……いや、甘いと言ったほうが近いか……だが――）
一成は知っている。
官兵衛もまた、自分を謀殺しようとした、かつての主君小寺政職を見逃し、困窮にあえぐその息子を救った。
（その甘さは、大殿にも負けませんな）
殺し殺される戦国の時代にあって、「甘さ」を捨てない生き方を貫けるのは、それはもう「強さ」である。
自分は良き義父と、良き義兄に巡り会えたと、一成は自身の運命に、改めて感謝をした。
ちなみに――この時、長政が見逃した、荒木村重の息子の名は、岩佐又兵衛という。
彼は後に「浮世又兵衛」と呼ばれるほどの、時代を代表する絵師となる。
その画風は後世の絵師たちに受け継がれ、「浮世絵」と呼ばれ、日本のみならず、ゴッホやゴーギャンなど、世界にまで影響を及ぼすことになる。
「あ、そうだ！　せっかく屏風絵が完成したのだ。それを祝って、一つあの世の父上に捧げる歌でも唄うかな！」
「は？　なんでそうなるんです!?」
それまでの厳粛な空気を壊そうと思ったのか、ただ単に唄いたかっただけなのか、どちらかはわからないが、いきなりの長政の提案に、一成の顔が青ざめる。
黒田長政、戦国を代表する名将の一人だが、一つ大きな欠点があった。
音痴なのだ。凄まじく。
それに比べれば、他の欠点など無きに等しい。
それはもはや拷問の域にあり、「歌で人が殺せるとは」と、耳から血を噴き出させるほどである。
「やめましょうよ、友信様にも怒られたじゃないですか!?」
「太兵衛は……その、アレだよ！　酔っ払ってたんだよ！」
「いえいえ、あの時は珍しく友信様しらふでした！」
母里友信こと太兵衛は、大坂の陣終結の直後、この世を去った。
彼はある日、音痴な長政が、歌を褒められ喜んでいたところ、「んなわけねぇだろ、黒田の殿ともあろう者が下手なお世辞を真に受けやがって。情けなくって涙が出らぁ！（意訳）」と怒鳴りつけたという。
これは、黒田家の史書にも残されている。
「それに、〝あの方〟にも禁止されたでしょう！」
長政の音痴っぷりは年々酷さを増し、たま

たま歌を聞いた下女が寝込んでしまい、ついにある人物から歌を禁じられてしまったのだ。
「いいじゃないか！　いまこの部屋にはお前しかいないんだし！」
「わかりました！　せめて、辞世の句を詠ませて下さい！」
「そこまで言うか、お前!?」
一成の顔は本気であった。
関ヶ原の合戦を始め、数多の戦で黒田家の先鋒隊を務めた武人が、死を覚悟した顔で訴えていた。
「大丈夫だ。今日は特に喉の調子もいいし！父上、お聞きください！」
制止を振り切り、すぅと息を吸うや、長政が一曲唄い始める。
と――
「ん？」
ドガドガドガと、廊下を踏み鳴らしながら、誰かがやってくる。
「長政――!!」
障子を壊さんばかりの勢いで開き現れたその老女が、怒鳴りつける。
「歌は禁止だと、アレほど言ったのを忘れましたか!!」
「ごめんなさい母上!?」
現れたのは、長政の母にして、官兵衛の妻・光。
齢七十に迫ろうとしていたが、いまだ壮健であった。
どれくらい壮健かというと、長政の顔面をわしづかみにし、絞め落としてしまうくらいである。
「あ――!?」
黒田屋敷に、長政の悲鳴がこだました……。
「日本一の軍師」を目指した男、黒田官兵衛が駆け抜けた、戦国という時代は終わった。
だが彼がこの世を去った後も、黒田家の人々は、様々な困難に遭いながらも、決してあきらめることなくあがき続け、後世にまでその名を残す。
「どんな地獄にも、光は差すのだ」と、官兵衛が願いを込めた、藤巴の旗の下で――



message

『軍師 黒田官兵衛伝』ショートノベルを
書かせていただきました、SOWでございます。
重野先生の作品は、昔から愛読させていただいておりまして、
もう大喜びで参加させていただきました！
戦国と言うと、信長・秀吉・家康などが思い浮かびますが、
その二世たちは評価が分かれていたりします。
親が偉大すぎると、子は大変なものです。
そんな中、父・官兵衛の跡を継いで、
色々ありながらも懸命に生きた長政の生涯には、
昔から惹かれるものがありました。
重野先生、これからも、官兵衛と長政の活躍を、
楽しみにしております！

SOW

SOW ソウ

2008年に集英社でデビュー。
代表作は『戦うパン屋と機械じかけの看板娘』（HJ文庫）など。
これまでに『るろうに剣心』などジャンプ系作品を中心としたノベライズに、
『ブレイブリーデフォルト ブレイングブレージュ』『グリムノーツ』
（共にスクウェア・エニックス配信）などのゲームシナリオも手がける。

●初出一覧
「ヤングアニマルDensi」
2016年４月29日公開・５月20日公開・６月24日公開・７月22日公開
８月26日公開・９月30日公開・10月28日公開・12月23日公開
2017年２月３日公開・３月31日公開・５月19日公開・６月30日公開
「マンガPark」
2017年10月３日公開・11月７日公開・12月12日公開
2018年２月６日公開・４月10日公開・６月12日公開・９月11日公開

YOUNG ANIMAL COMICS
軍師 黒田官兵衛伝④

デジタル版

著者　重野なおき
(C) Naoki Shigeno 2019
発行者　高木靖文
発行所　株式会社 白泉社
発行日　2019年1月1日

黒田官兵衛年表

天正十（一五八二）年

月	出来事
六月	山崎の戦いにて秀吉が明智光秀を破る
	清洲（清須）会議
	柴田勝家　お市と結婚
十月	秀吉が信長の葬儀を執り行う
十二月	秀吉　織田信孝に対し挙兵
	岐阜城を攻め降伏させる



天正十一（一五八三）年

一月	滝川一益（たきがわかずます）が秀吉に対し挙兵
三月	柴田勝家　越前国（えちぜんのくに）を出陣 賤ヶ岳（しずがたけ）の戦い始まる
四月	織田信孝　再度挙兵する 秀吉　二度目の大返しを決行 柴田勝家を破る



白泉社